



Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

無理はしないで同じ形を目指さないこと： 平時に戻るまでの遠隔授業のデザイン



熊本大学
教授システム学研究センター長
大学院教授システム学専攻長
教授 鈴木 克明

<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>



平時に戻るまでの遠隔 授業のデザイン7か条



Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

1. 対面授業をやらなくても立派な通学制課程
2. 無理はしない
3. 同じ形ではなく同じ価値を追求する
4. 順序を変える
5. 大切なのは学生が学び続けること
6. 非同期で学生の学習活動を支える
7. 平時になっても使えるオンラインの要素を探す
→平時が戻った後にはICT教育利用の本格化を



第1条. 対面授業をやらなくても立派な通学制課程



Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

- 熊本大学大学院教授システム学専攻はこの有事にあっても平常通り。もともと100%オンラインだから。電源とネットワークインフラが途絶えなければ「平時」。熊本地震の時も本専攻だけ平常運転だった(学生の5割が関東圏)
- 対面授業なしだが通学課程。大学設置基準第25条に定める「メディア授業」、オンデマンド型)。すべての大学で「これでも通学課程」としてOKであることの前例(学部教育においては上限60単位だが、「有事」で緩和の動きあり)
- 非同期の掲示板中心で、遠隔講義なし、定期試験もなし。教育工学の知見と遠隔教育の先進事例を参考に設計し、運用(2006年開設で15年目) (Suzuki, 2009)



第2条. 無理はしない



Kumamoto University

大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

- ・ 有事に平常通りの教育をやろうとしない(Rebecca, 2020)
これまでの授業のすべてを未来永劫にわたってオンラインに移行することが最終目的地ではない。
暫定的な試みである
- ・ もともとオンラインでやる予定でなかったことを無理にオンラインに移行しようとする と莫大な手間暇や環境整備が必要になる
- ・ まっとうなオンライン教育は、素人にすぐにできるものではない。できる範囲で「学びを止めない」ことが関の山だと考え、期待値を下げる



第3条. 同じ形ではなく 同じ価値を追求する



Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

- ・ 対面授業と同じやり方をオンラインで実現しようとし
ない(例えば、講義の代わりに教科書を読んで
レポート提出など、より無理のない手段を選ぶ)
- ・ 同期型の模擬講義にこだわらず、非同期でやって
その結果を報告するように指示する(可能な限り
フィードバックを与える。これも非同期でやる)
- ・ 学習目標に常に戻って考える。「違う手段でも同じ
目標(=価値)に迫れるのではないか」(鈴木 2012a)
と考える。それでも同じ価値まで達しない場合は、
対面になってからの挽回を図る



第4条. 順序を変える



Kumamoto University

大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

- ・ シラバスの順序にこだわらずに、オンラインでやりやすいものから着手できるように配列を変える
- ・ 対面よりはオンライン環境の方が効果がありそうなことを先にやる（例えば、検索結果のレポートを作成する等の課題は、課外が適している）
- ・ グループワークは個別学習より難しい（鈴木ほか2013）。とくに初対面のメンバーと取り組むのは難しい。やりやすい個別学習から始め、難しいものは後回しにして、対面になってからの挽回を図る



第5条. 大切なのは 学生が学び続けること



Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

- ・ 教員が教え続けることではない。教員は学習成果を評価する(単位授与)役割を果たせばよい
- ・ 自力でできない学生には支援の手を差し伸べる。自分でできる学生は放置する。この本来の関係性に戻る(あるいは少しでも近づく)きっかけにする
- ・ 転んでもただでは起きないよう、より高い自律性を求める。対面授業復活後も、自分で学ぶ力がついている学生を相手にすることができて、教員は楽になるし、学生も学生らしくなることを狙う



第6条. 非同期で学生の 学習活動を支える



Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

- 同期型動画配信はネットワークリソースを食い尽くす危険あり。非同期を中心に据える
 - JMOOCなどの公開講座や科目関連情報提供サイトの閲覧、情報検索が必要なレポート課題、掲示板での議論やレポートの相互評価、自動採点方式の知識確認クイズ、学習成果の集積(ポートフォリオ)など(鈴木2013)
- 非同期型の仕掛けで学習を最大限まで支え、それを補うことに同期型の遠隔授業や個別指導を限定する方針を設計の基本に据えるのがよい



第7条. 平時になっても使える オンラインの要素を探す



Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

- ・ 平時になり対面授業が可能になっても「これは取り入れてもよい」と思える要素を見つける。それができれば、今回の努力は無駄にはならない
 - 例えば、遠隔講義を録画してナマの講義をやめる
- ・ オンライン学習を経験した者は誰でも「オンラインでできるのならば集まる必要はない」と違和感を持つ人になる。パンドラの箱を開けてしまう以上今までと同じでは不満を感じる人が多くなることを前提に、対面授業復帰後も使えるオンライン要素を見つけ、期待レベルの上昇に備えておく



平時に戻るまでの遠隔 授業のデザイン7か条



Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

1. 対面授業をやらなくても立派な通学制課程
2. 無理はしない
3. 同じ形ではなく同じ価値を追求する
4. 順序を変える
5. 大切なのは学生が学び続けること
6. 非同期で学生の学習活動を支える
7. 平時になっても使えるオンラインの要素を探す
→平時が戻った後にはICT教育利用の本格化を



平時が戻った後には ICT教育利用の本格化を



Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

- ・ フルオンライン（対面授業なし）の大学院教育を15年やってきた我々の経験値は「直接会わないとにくいことは懇親会と名刺交換だけ」というもの。高卒直後の若者が相手の場合には、これに社会性等の対人能力の育成が加わると想像できるが、認知的領域の教育（頭を鍛えること）は、オンラインの機能をフル活用すれば、対面と同等あるいはそれ以上のプログラムが提供できる
- ・ そのためには専門的な知見に基づいて周到な準備が必要。今はそれを目指すときではないが、近い将来、平時が来れば検討に値する。遠隔教育よりも恵まれた対面教育のメリットをフルに活用して、ICT利用を本格化させて、次世代の大学をつくる第一歩になればと願っている（鈴木 2012b; 2019; 2020）

参考文献

注：発表年の数字にリンクがあります



Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

- ・ 鈴木克明([2020](#))我が国の教育工学研究とインストラクショナルデザイン研究の今後に寄せて[総説]. 日本教育工学会論文誌, 43(3):187-196
- ・ 鈴木克明([2019](#))インストラクショナルデザイン—学びの「効果・効率・魅力」の向上を目指した技法—[解説論文]. 電子情報通信学会通信ソサエティマガジンb-plus 50
- ・ 鈴木克明([2013](#))eラーニング活用による教授法の再構築に向けて. 工学教育, 61(3):14-18
- ・ 鈴木克明ほか([2013](#))「オンライン大学院におけるグループ課題の系列化」日本教育メディア学会第20回年次大会(和歌山大学)発表論文集:51-52
- ・ 鈴木克明([2012a](#))「遠隔教育者を支える同価値理論と交流距離理論」第19回日本教育メディア学会年次大会(東北学院大学)発表論文集 27-28
- ・ 鈴木克明([2012b](#))「大学における教育方法の改善・開発[総説]」日本教育工学会論文集、36(3)(特集号:大学教育の改善・FD):171-179
- ・ Suzuki, K. ([2009](#)). From Competency List to Curriculum Implementation: A Case Study of Japan's First Online Master's Program for E-Learning Specialists Training. *International Journal on E-Learning*. 8(4), 469-478

有事を乗り切るための参考サイト

注:それぞれ冒頭の記号(🔗)にリンクがあります



Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

- 🔗 "Please do **a bad job** of putting your courses online" by Rebecca Barrett-Fox
- 🔗 "How to **adapt** courses for online learning: A practical guide for faculty" from HUB (ジョン・ホプキンス大学)
- 🔗 "So You Want to **Temporarily** Teach Online" by S. Moore and C. B. Hodges from in *Inside Higher Ed*
- 🔗 "Going Online **in a Hurry**: What To Do and Where To Start" by M. D. Miller in *The Chronicle of Higher Education*
<https://www.chronicle.com/article/Going-Online-in-a-Hurry-What/248207>
- 🔗 【連載】ヒゲ講師のID活動日誌(80): 新型コロナで「集まること」の意義を問い直す in IDマガジン85号



無理はしないで同じ形を目指さないこと： 平時に戻るまでの遠隔授業のデザイン



熊本大学
教授システム学研究センター長
大学院教授システム学専攻長
教授 鈴木 克明

<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>